

31E13-am11

保険薬剤師と病院薬剤師の就業意識の比較—大手調剤薬局とグループ病院薬剤部のデータから

○中込 啓一¹, 亀屋 俊彦², 深井 克彦³, 山田 奈穂子⁴, 菅野 敦之⁵, 高橋 智⁶, 林 行和⁷(¹武蔵野大,²クラフト,³日本調剤,⁴ファークコス,⁵メディカルファーマシー,⁶徳洲会,⁷アクロネット)

【目的】実務実習で学生に最も影響を与える可能性がある、保険薬剤師、病院薬剤師の正職員の就業意識を比較したので報告する。

【方法】大手調剤薬局の保険薬剤師とグループ病院の病院薬剤師を対象に実施した無記名アンケートの結果を比較した。比較項目は、①保険／病院薬剤師を選んだ理由、②現在の職場を選んだ理由、③仕事をする上で最も重視する事項、④仕事の満足度、⑤職場の不満足な点、⑥今後の予定、⑦退職（転職）理由、の7項目である。

【結果】保険薬剤師（以下CP）1585件、病院薬剤師（以下HP）440件の有効データから正職員CP1270件、HP429件を、性別、婚姻状況の属性に分類し、カイ二乗、Wilcoxon rank-sum test、Kruskal-Wallis test検定、数量化3類、クラスター分析を行った。職業選択理由は、CPは「免許を活用したい」が約4割、HPは「医療で働きたい」が約5割、現在の職場選択の理由は、CPは「知名度、規模」が約4割、HPは「自己成長」、「規模、知名度」「通勤に便利」、「方針・理念」それぞれ約2割に分散した。現在の仕事の満足度は、CP、HPともに90%の薬剤師が満足傾向を示した。現在の職場での勤務予定では、定年も含めた長期勤務希望は、CPの男性の約5割、既婚女性の約4割、HPの男性の約4割、既婚女性の約5割であった。数量化3類では、男性・独身、既婚、女性・独身、既婚、年齢、勤務年数、職場選択、重視事項、不満足な点、今後の予定に経験則を補強する傾向が見られた。

【結論】今回の就業調査の比較では、保険薬剤師と病院薬剤師の属性によって、差が見られた。保険薬剤師、病院薬剤師の満足度は総じて高いが、実際の勤続状況に反映しているとは言いがたい。これらの結果より、正職員薬剤師の就業意識は、実習学生の職業観に少なからず影響を与える可能性があると考えられる。